

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 12 日 9:05AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 40,000～45,800 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 40,000～46,500 ドル
(S&P500) 5000～6550

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,500～24,500
(ナスダック総合) 18,500～22,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

(おしらせ) 次回号の更新は 9 月 19 日(金)の予定です。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



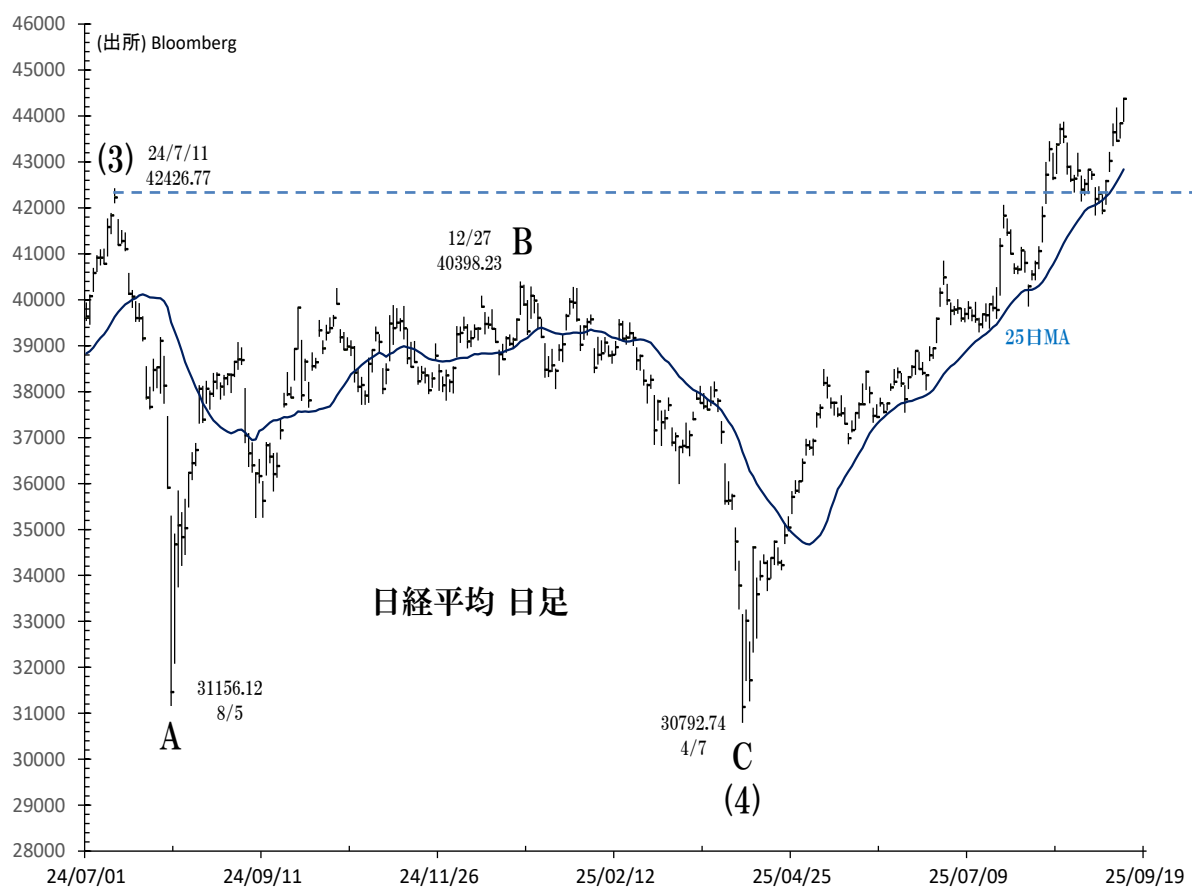
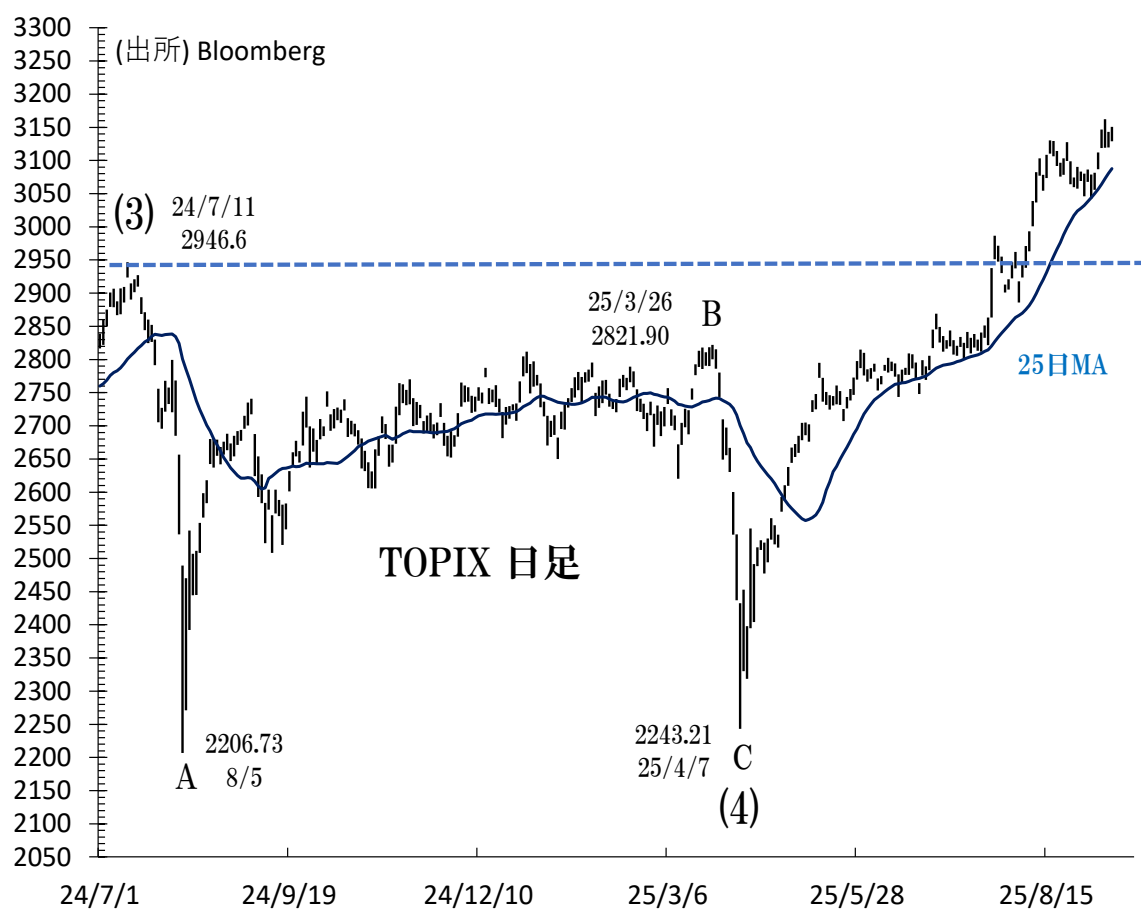
【週足 エリオット波動分析】

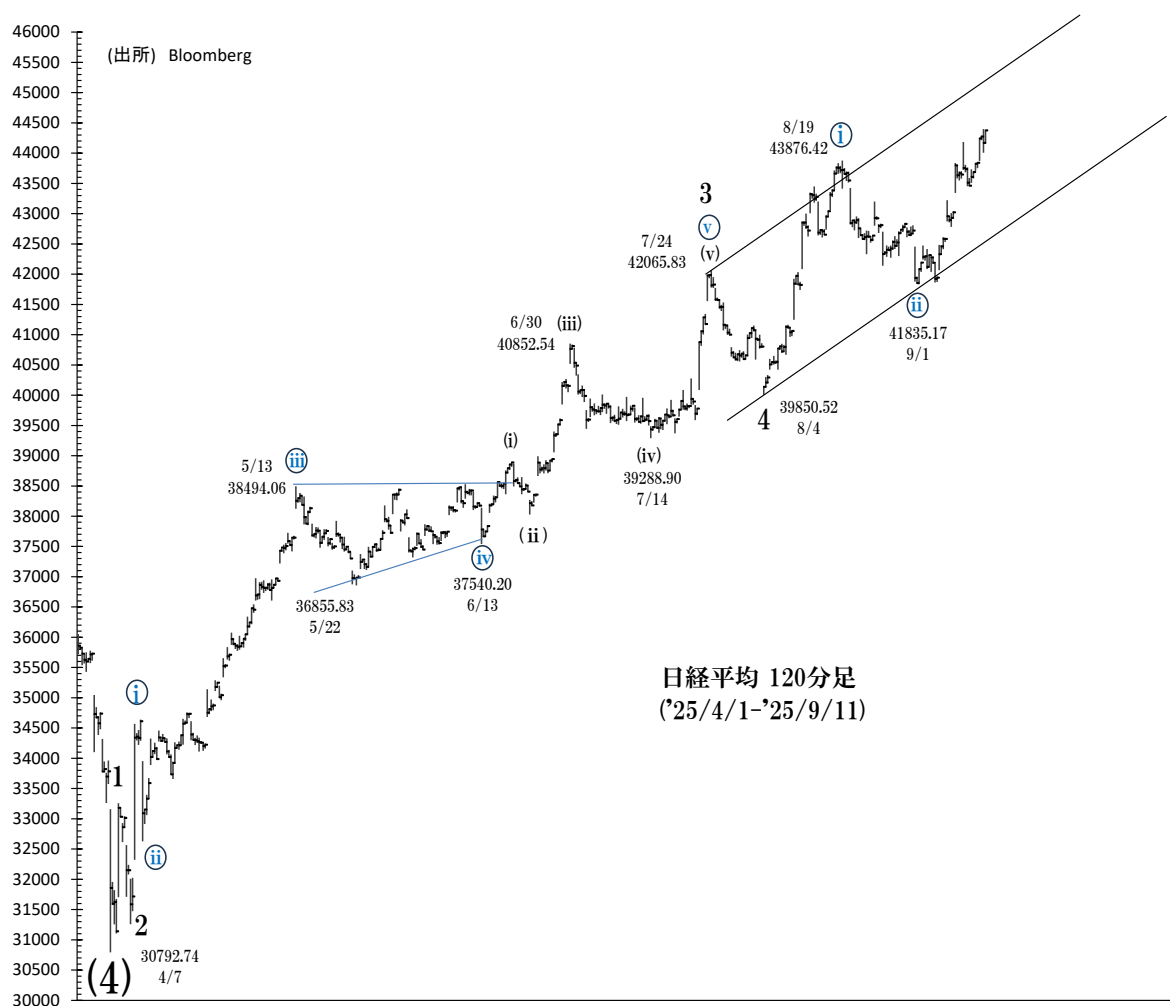
今年 4 月 安値 (30,792.74 円) からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底 (16,358.19 円、20 年 3 月) からのプライマリー第③波は完成します。

第(5)波目には、①企業業績や景気などファンダメンタルズは以前より弱め、②平均出来高は少ない、③中小型株が選好されやすい、④先行きへの極端な楽観論、などの特長があります。現在は①～③は揃っていますが、到底④の状況になく、いわば「懐疑の中で育つ強気相場」と呼べそうです。つまり懐疑論が強い楽観論に置き換わらない限り、第(5)波の強気相場は続くと思われます。

筆者は 9～10 月に日経平均が 4 万 5000 円～4 万 9000 円を付けてもおかしくない、とみています。

「ポスト石破」を選出する自民党の総裁選は、国会議員の投票を 10 月 4 日に行うことで決まりました。次期政権の打ち出す政策期待で、株価はさらなる上振れが期待されます。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

フィボナッチ比率からの目標価格①は[3164]、目標価格②は[3323]です。

9月9日には一時3162まで上昇し最高値を更新しました。目標価格①をほぼ達成しましたが、4月からの波動構成をみると上昇パターンはまだ完成していないようです。今後も上値試しの動きが続く可能性が高い、と思われます。

なお7月24日に初の1000兆円大台に乗った東証プライム時価総額は、9月11日には1071兆円と過去最高水準を更新しました。

[日経平均]

39,850円(8/4安値)以来、マイナー級・第5波の上昇が展開中であり、41,835円(9/1安値)からはマイニュート級・マル iii 波の上昇とみられます。この波動カウントが正しければ、**マル iii 波の上値は4万6000円程度へ伸びる可能性があります。**

フィボナッチ比率などから得られる(マイナー級)第5波の目標価格は以下の通りです。

[44,597円][45,230円][48,568円][48,896円][48,964円][49,074円]

9月11日には一時44,396円まで上昇し、上記1番目の目標価格に接近しました。

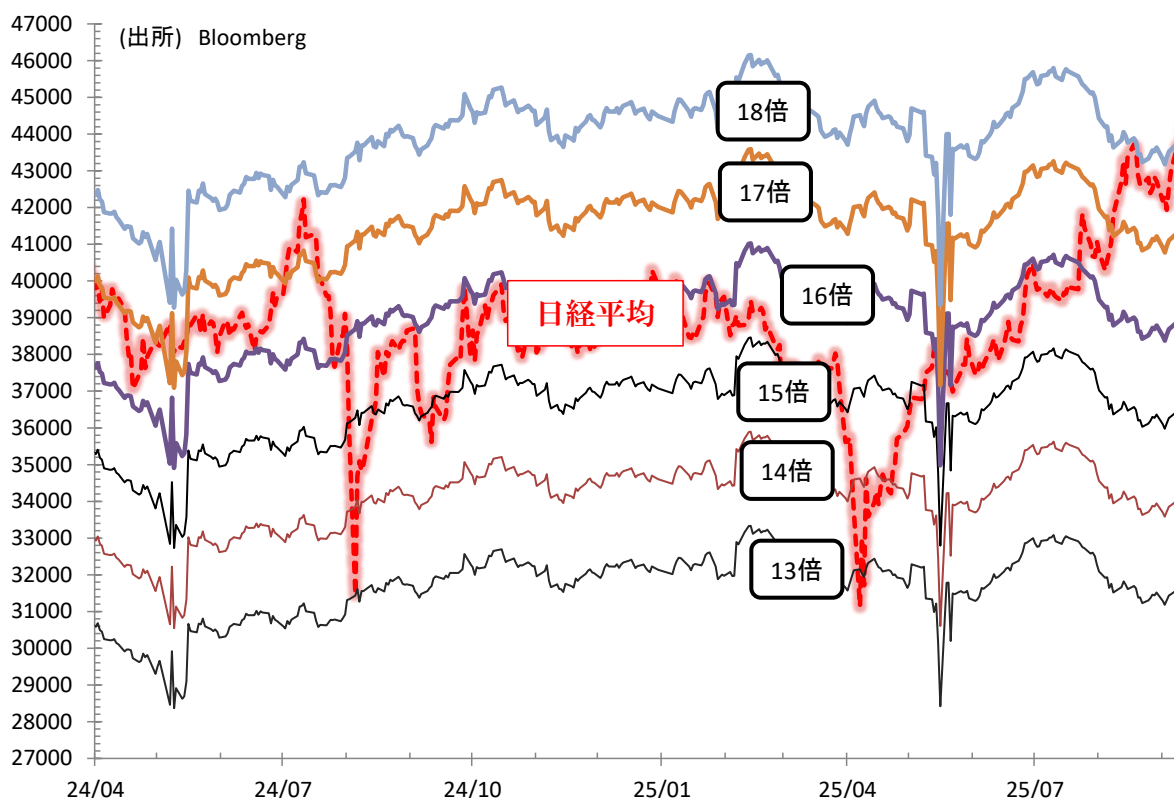
[予想 PER 別の日経平均水準]

9月11日の日経平均予想 PER は 18.03 倍・予想 EPS は 2461 円。

PER は 23 日連続(8/8~9/10)で 17 倍台で推移し、18 倍台に上昇しました。18 倍台を付けるのは 2021 年 5 月以来、4 年 4 カ月ぶりです。

コロナショック底以来の強気相場ではもっとも高い PER となり、将来への投資家の期待が強まっていることを表しています。

日本株相場が本格的なインフレ相場を迎えるなか、18 倍台定着なるかが注目されます。なおアベノミクス相場がクライマックスを迎えた 2015 年 4 月の PER は 19.15 倍でした。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20%安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも 4 月安値(36,611ドル)は維持されるでしょう。その後 1~2 年程度のもみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

9 月 11 日には一時 46,137ドルまで上昇、最高値を更新しました。

44,948ドル(9/2 安値)を割ると弱気トリガー。調整局面入りが示唆されます。



【S&P500 日足 エリ奥特波動分析】

7月中旬からの上昇パターンは、強気トレンドの最終局面に出現する「エンディング・ダイアゴナル」とみられます。

9月11日には6592まで上昇し最高値を更新すると共に、ダイアゴナル上辺(6604)にほぼ達しました。なお目先でダイアゴナル上辺を上回る「スローオーバー(throw-over)」という強い動きがあれば、それはむしろピークアウトの可能性を高めるでしょう。

6343(8/20 安値)を割ると弱気トリガー、調整入りが示唆されます。

【S&P500 長期エリ奥特波動分析】

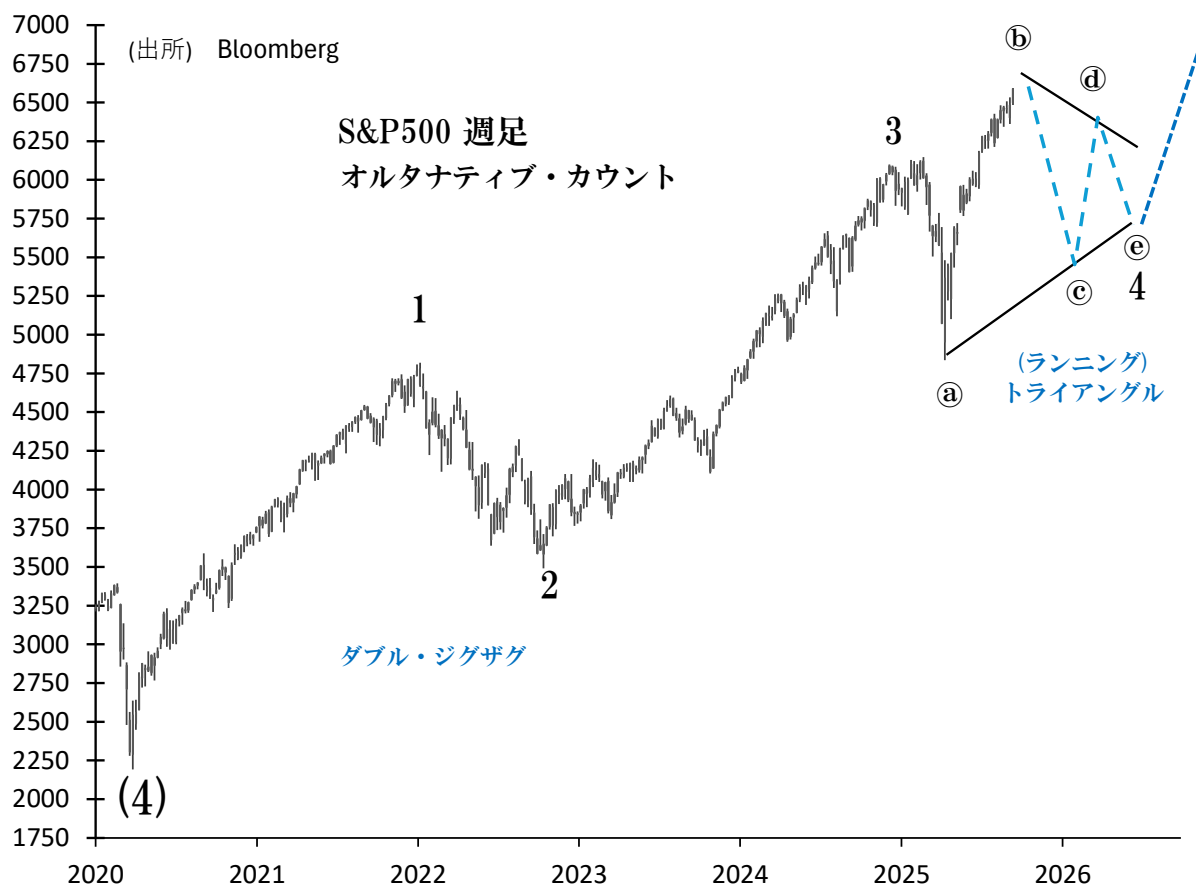
（プリファード・カウント）

4月安値(4835)からの上昇は、インターミディエイト級第5波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは4月安値を大きく下回ることが予想されます。

（オルタナティブ・カウント）

4月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

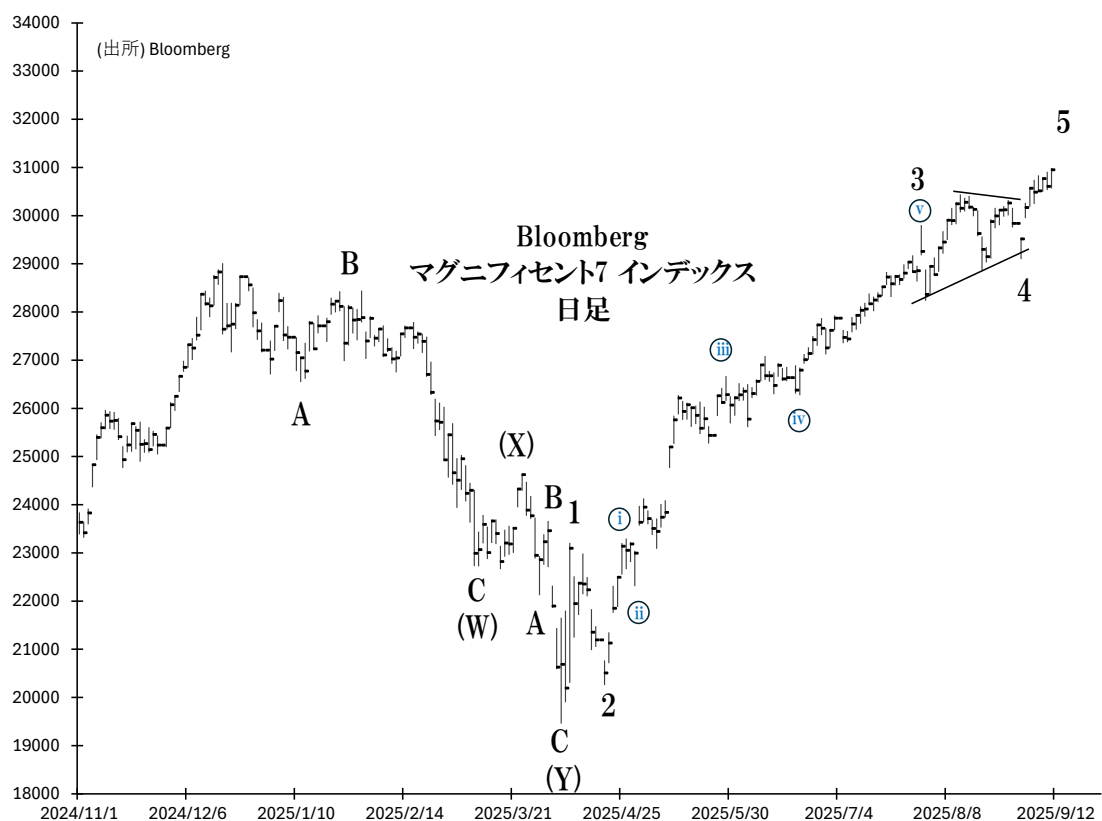
近々⑥波の下げがスタートし、それは②波(2月～4月)下げ幅に対し62%～66%の大きさ(813～866ポイント)になるでしょう。この⑥波によりS&P500は、5400を下回る展開になりそうです。



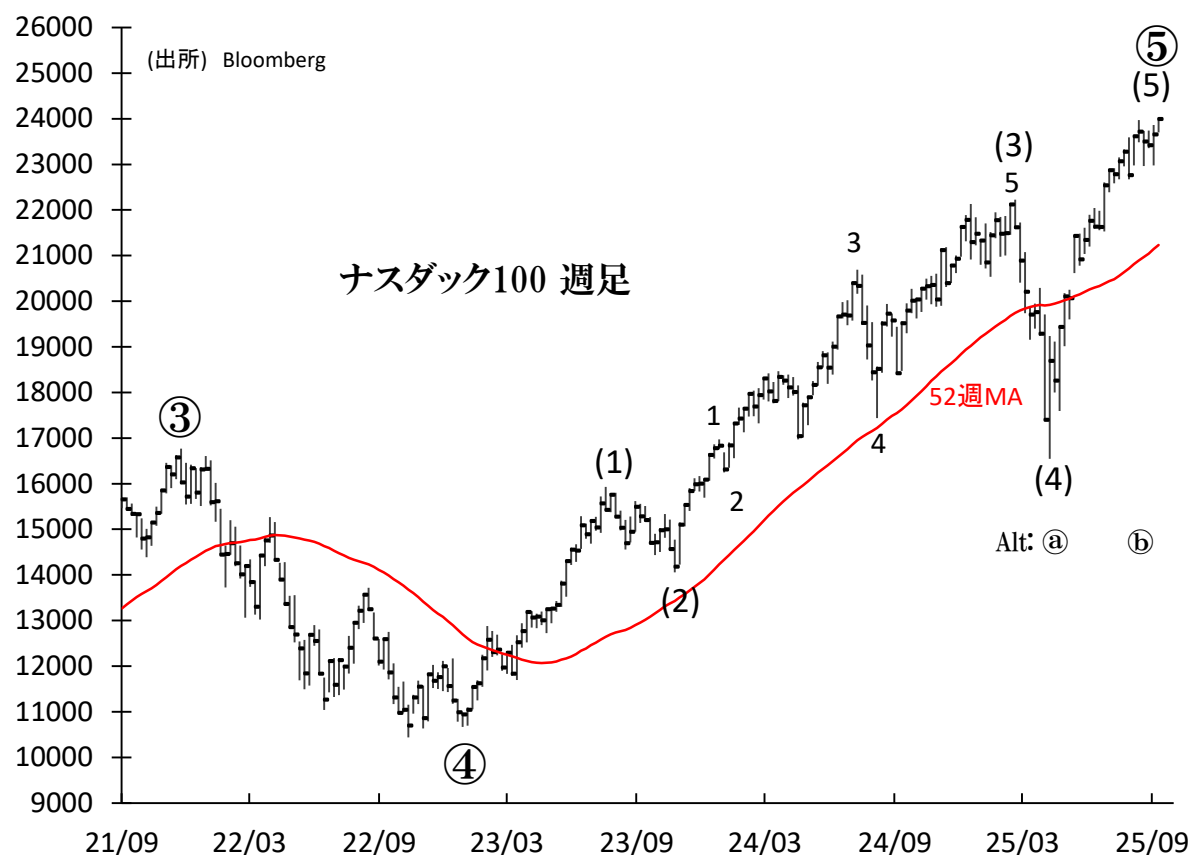
【ダウ輸送株平均】（直近で最高値更新の）ダウ工業株平均と「未確認」続く



【マグニフィセント7】4月から5波構成による上昇



ナスダック



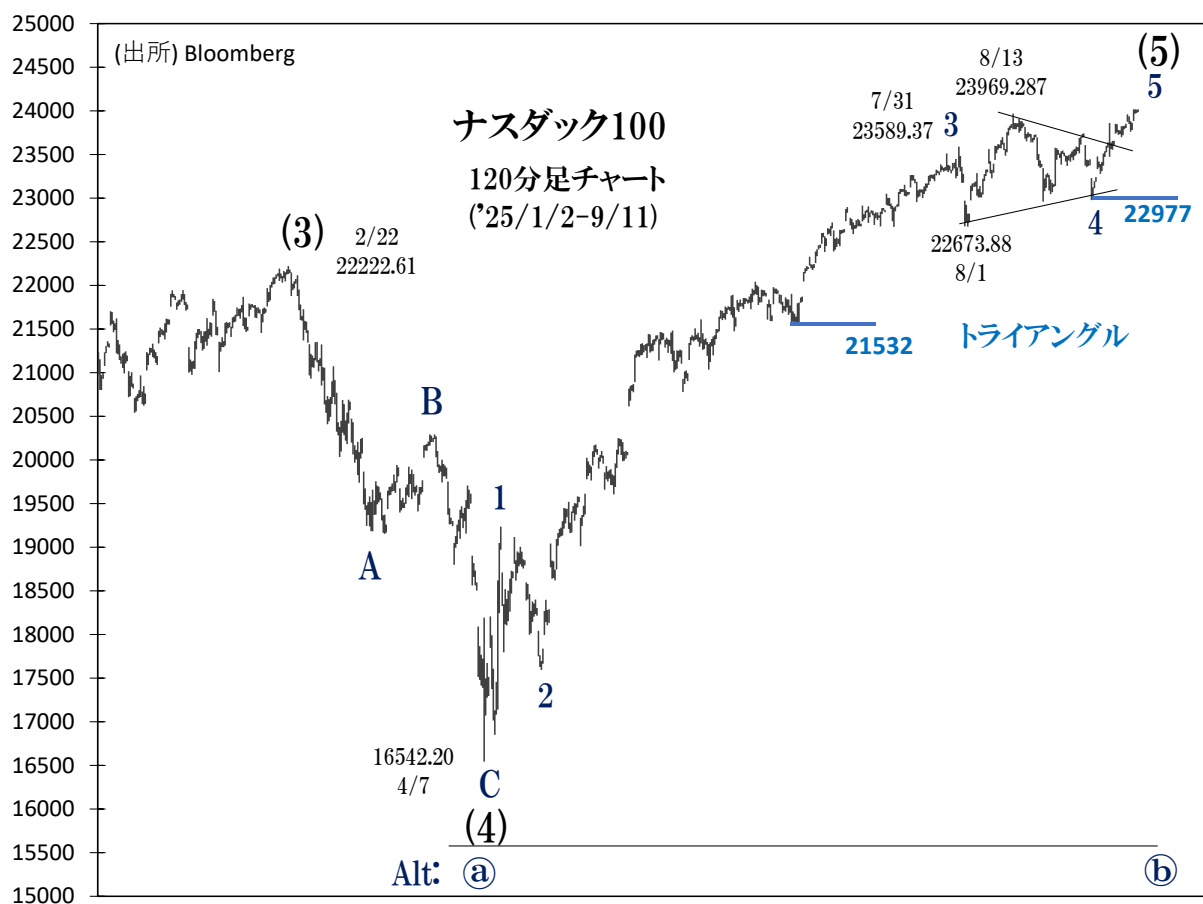
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。既に最高値を更新しており、第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。遠からず調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中⑥波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず③波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも③波の下げ幅は②波のそれに対し 62%~66% となり、⑥波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

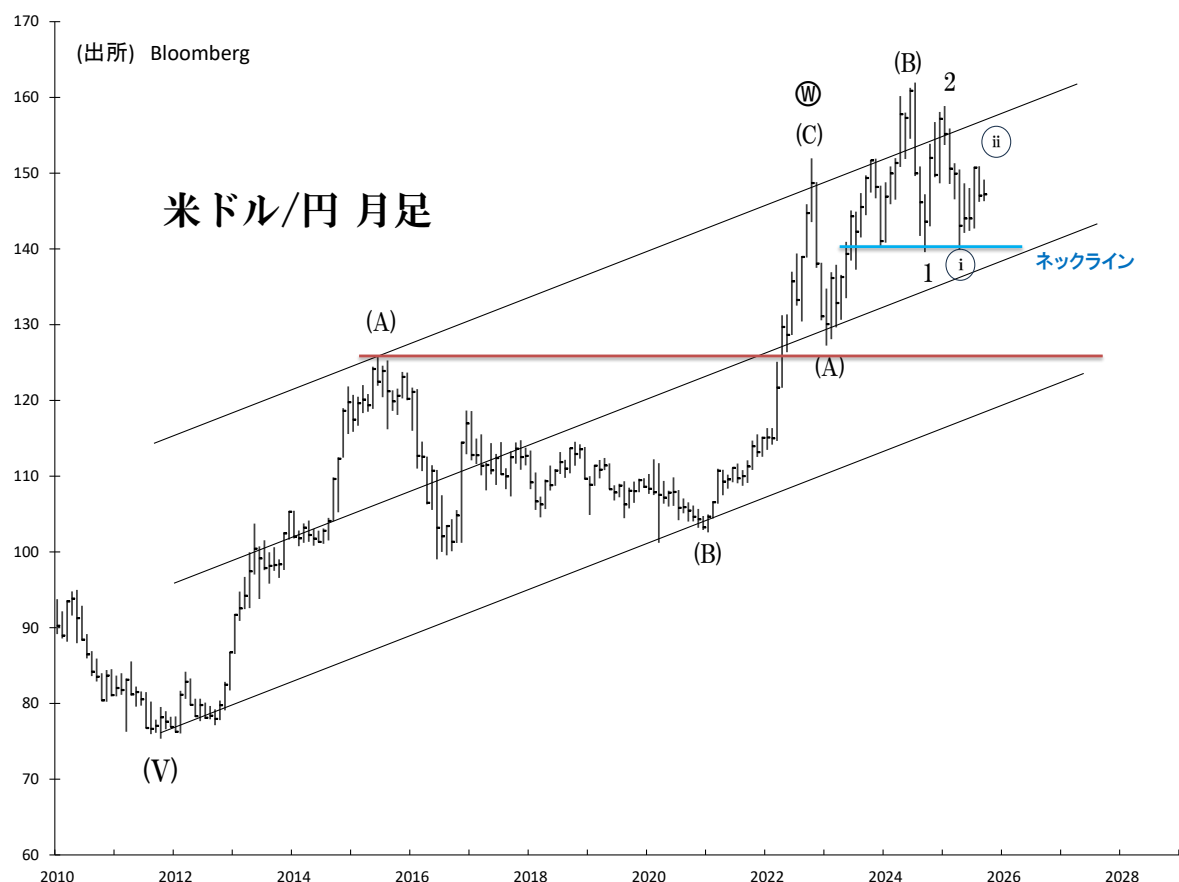
4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波か、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

7 月末からの「(ランニング)トライアングル」(第 4 波)は 22,977(9/2 安値)で完成し、足元は第 5 波の上昇とみられます。9 月 12 日には一時 24,016 まで上昇、最高値を更新しました。

この水準は、フィボナッチ比率からの上値想定レンジ[23,195-24,224]内にあります。ナスダック 100 はいつピークアウトしておかしくありません。

22,977 を下回ると最初の弱気トリガーが発動し、当面 22,673 への下値試しとなるでしょう。

米ドル/円

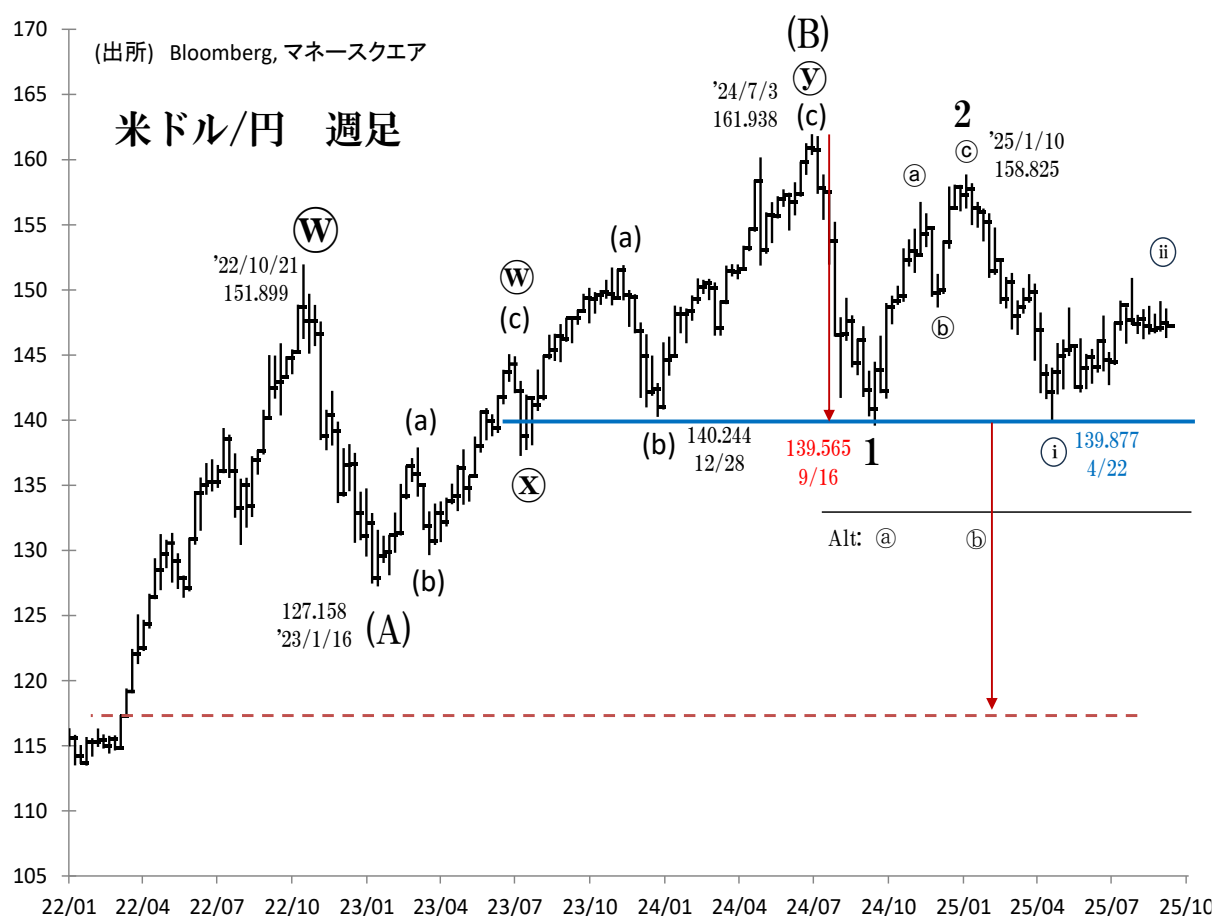


【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられ、24 年高値(161.938 円)を上回ることはいずれもありません。そして 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1 ドル=125 円～120 円へのドル安・円高になる可能性を筆者はみています。

年内については、ドル/円はじり高の展開が想定されます。

しかし、おそらく 26 年前半には 139 円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。

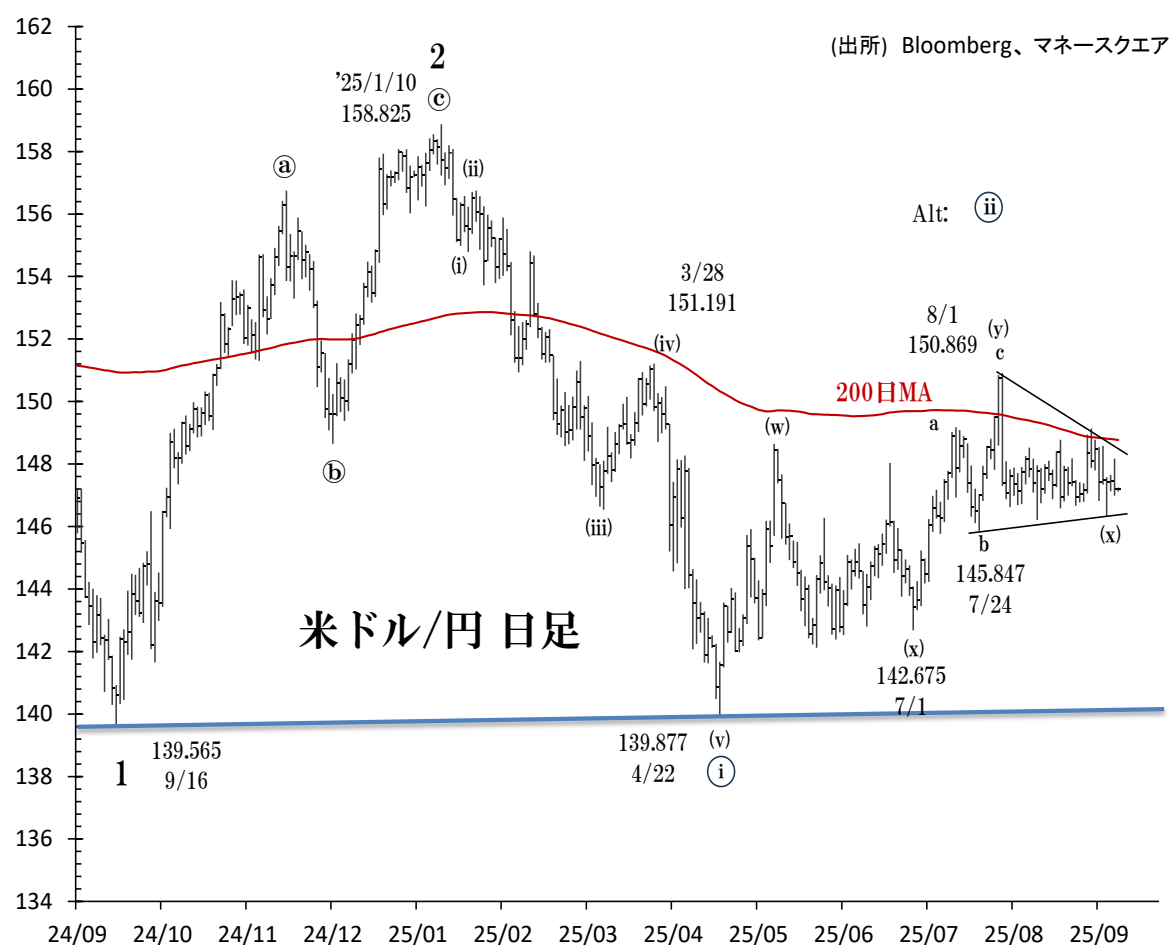


【週足 エリオット波動分析】

今年1月からのドル安・円高は、第3波とカウントされます。これによれば、先々1ドル＝120円試しが視野に入ります。第1波と第3波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625円]という目標値が得られます。

一方139.877円(4/22)からのマルii波による上昇は継続していると思われます。今後1～3カ月で1ドル＝151円処を試す可能性が高い、とみています。

しかし中長期のドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル＝120円割れの可能性もみえています。



【日足 エリオット波動分析】

139.877 円(4/22)からのマル ii 波によるリバウンドは、まだ続いているとみられます。

マル ii 波は「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」とカウントされます。

149.100 円を上抜くことにより、8 月からのトライアングル完成が確認されます。そうなれば、**[151.586 円]** (1 月からの円高の 61.8%戻り水準)や**[154.353 円]**(同 76.4%戻り)などを試すでしょう。

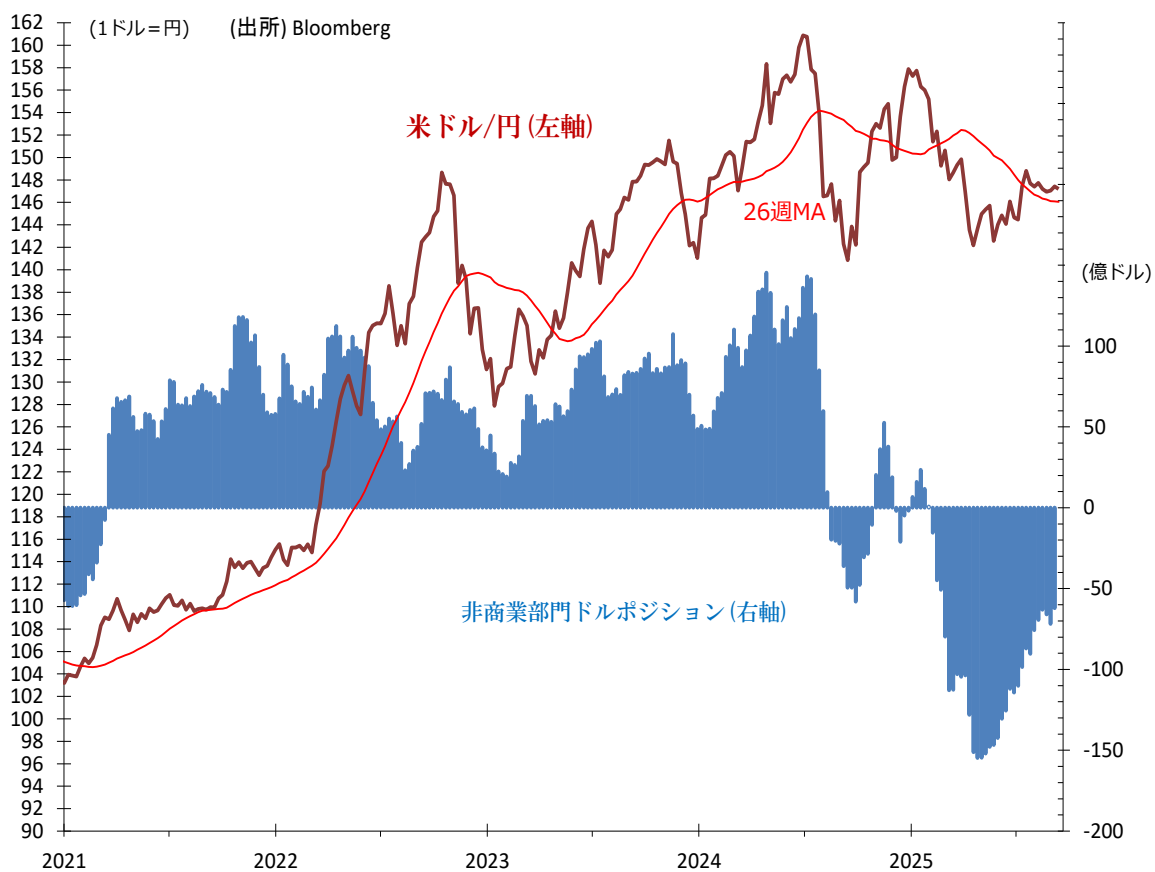
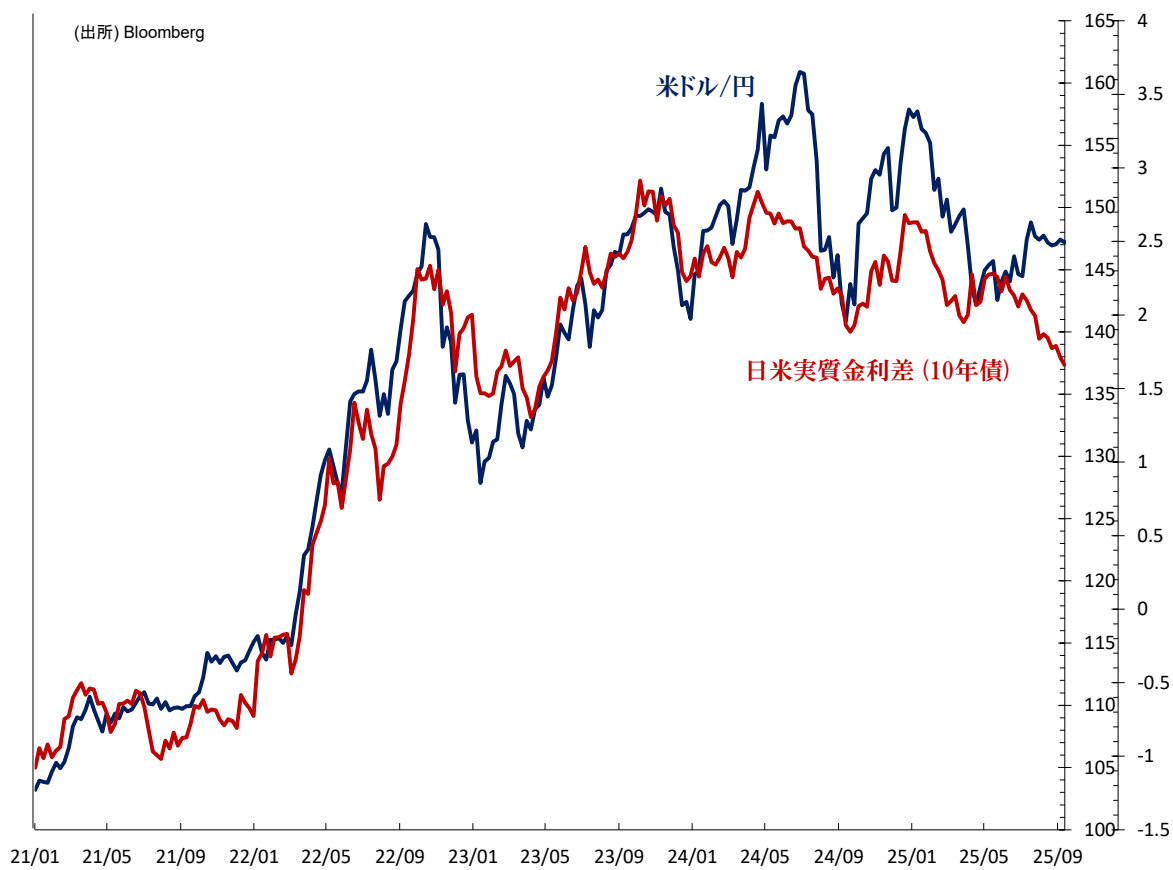
その反面、今後 145 円処を明確に下抜くと、マル ii 波が 150.869 円(8/1)を以て、既に終わった可能性を考慮する必要があるでしょう。

金利差からのドル/円推計値

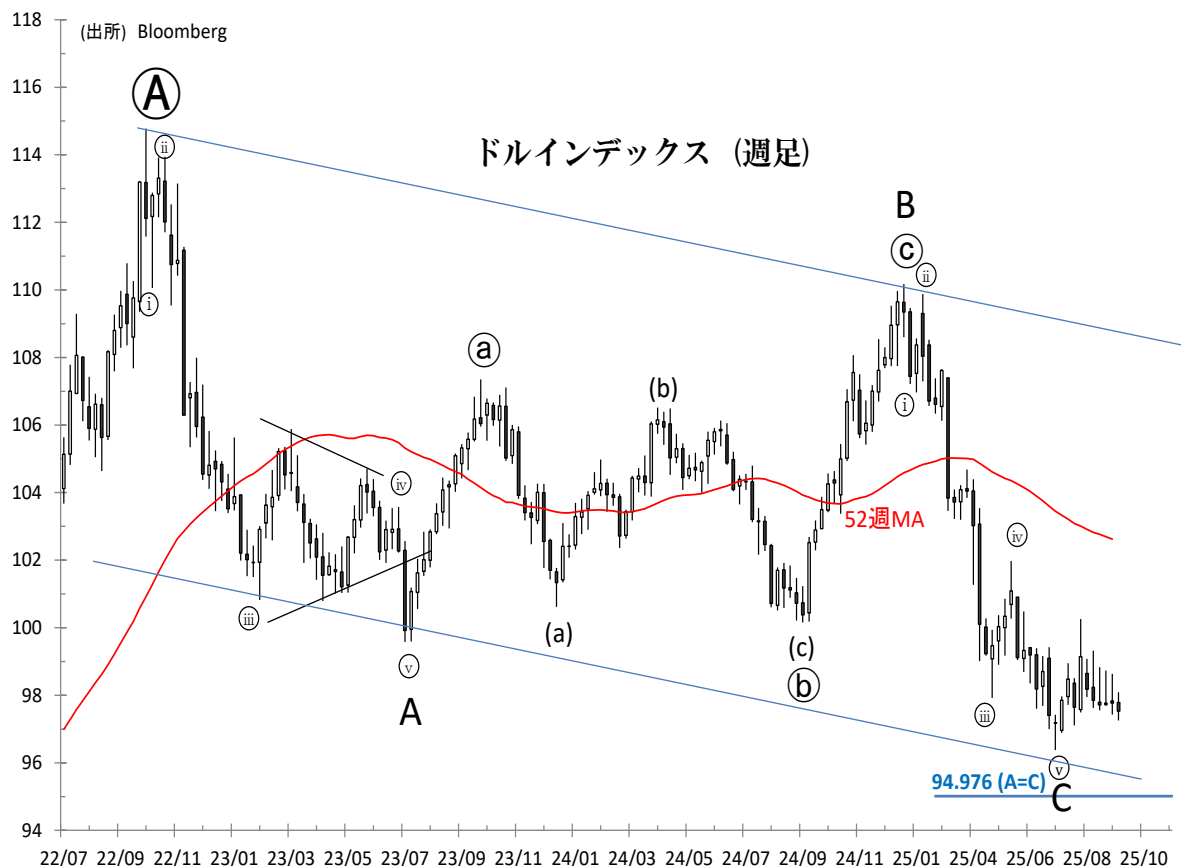
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は**[139.609 円]**です。

投機筋の円買い持ち高は 3 週ぶり縮小(2025 年 9 月 2 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 71.82 億ドルから 62.11 億ドルへ 3 週ぶりに縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

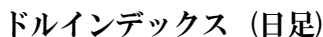
年初から半年近く続いたドル安 C 波は 96.377(7/1)で終わった可能性が高い、とみています。
それは、22 年高値からのジグザグ(A-B-C)の完成を意味するものです。

少し長い時間軸でみると、⑥波は短くとも 2028 年頃まで続くでしょう。

この見方通りなら、7 月からのドル高は(X)波に位置付けられます。⑥波全体は「ダブル(トリプル)・ジグザグ」を描いていくでしょう。

ドル指数は、8 月から 11 月まで強くなる季節性があります。ここからすると、2～3 カ月はドル高傾向が続くとみられ、当面 101.977(C 波レサードイグリー・マル iv 波頂点)を目指すでしょう。

一方、今後 97.109(7/24)を下回ると上記見通しは撤回され、C 波中マル v 波によるドル安局面入り、と判断されます。この場合は 94.976 を目指すでしょう。これは、A 波と C 波が等しく下がる水準のことです。



※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
